

「古事の森」・「遊々の森」の協定締結と取組

岩手南部森林管理署 管理係長 ○千葉のぞみ
流域管理調整官 新岡 英仁

1 はじめに

岩手南部森林管理署では、平成21年度「古事の森」1件、「遊々の森」2件の協定締結をした。

「古事の森」については、文化財や歴史的な建造物の修復材の育成と森林環境教育等の啓蒙普及を目的に今回、平泉町「平泉古事の森育成協議会」との締結が、全国で10箇所目、東北では初の協定締結となっており、その取組が報道等マスコミにおいても紹介されている。

また「遊々の森」についても、国有林を森林環境教育等の場として活用することを目的に本年度の2件を含め3件の協定を締結し、学校、団体等に提供して地域での森林環境の保全等の啓蒙活動に活用されている。

平成21年度の協定締結と取組についての紹介をする。

2 「古事の森」・「遊々の森」制度について

「古事の森」とは、主に文化財に指定されるなど地域に所在する重要な木造建築物の修復材の育成と森林環境教育の場として国有林を協定に基づいて提供する制度であり、最長10年の期間内で締結する。

「遊々の森」とは、学校及び地域で森林のさまざまな活用を通して活動している者及び団体に活動の場として国有林を協定に基づいて提供する制度であり、最長5年の期間で締結する。

また、両協定とも双方の合意により延長できる。

3 当署における各種協定締結状況

平成16年度「歴史の森」～東北電労「歴史の森」育成協議会

平成18年度「遊々の森」～岩手県立水沢農業高等学校

平成21年度「遊々の森(星めぐりの森)」～西和賀町カタクリの会代表 瀬川 強

平成21年度「遊々の森(ハバラ谷地遊々の森)」～北上市わが流域環境ネット
代表 及川 一

平成21年度「古事の森」～平泉町平泉古事の森育成協議会会長 高橋一男

以上の5件の協定を締結している。

4 協定締結までの経緯

「古事の森」については、平成20年に東北森林管理局から当該制度と他森林管理局での実施事例を岩手県、奥州市、平泉町等の各自治体へ紹介したところ平泉町が前向きに取り組みたい意向を示したことから平泉町と協議会構成団体の検討及び

その団体に対する参加へ向けた趣旨説明、協議会設立から平成21年度のスケジュールの確認等を行ない、平成21年3月に「平泉古事の森」育成協議会を設立した。

構成員は中尊寺・毛越寺等寺社及び商工団体・林業団体等である。

協議会設立後は森林管理署と協議の上、協定締結日時の決定及び記念事業等の検討を行い平成21年9月26日協定締結式及び記念事業を実施した。

「遊々の森」については、平成20年度協定相手方より当該箇所についてその環境の維持とそれを利用した森林環境教育の場として利用したい旨申し出があった。

各申請者が地域での森林環境教育等の実績があること、申請箇所での各施業の実施予定がないこと、申請内容が国有林野事業の施業に影響する見込みがないこと、共用林野関係者、地域住民から趣旨に対して理解が得られることの各種条件が整い締結した。



設立総会の様子

5 平成21年度の取組

(1) 「平泉古事の森」

9月26日協定締結式及び記念植樹並びに記念講演会を開催した。

平泉町営毛越寺駐車場において協議会関係者、来賓等およそ120名が見守る中、育成協議会会長である高橋一男平泉町長と岩下岩手南部森林管理署長が協定書に署名し協定を締結した。

引き続き場所を植樹会場に移動し、記念植樹が行なわれた。



高橋育成協議会会長（左）
岩下岩手南部森林管理署長（右）



古久保局長より祝辞



植樹風景（来賓立松和平氏と児童）

記念植樹には関係者のほか平泉町内小学校2校と奥州市衣川区の小学校2校の各4年生の児童100名も参加し主な建造物の材料であるヒバ200本とケヤキ50本を植樹した。

午後の記念式典では、作家で古事の森提唱者の立松和平氏記念講演「古事の森をつくろう」に先立ち平泉・衣川に伝わる地元の演舞も披露された。



立松和平氏記念講演
古事の森をつくろう

また記念講演には地元平泉町、奥州市をはじめ、県内外からおおよそ350名が出席した。

この協定締結は、地元をはじめマスコミにも取り上げられ紹介されたほか、記念植樹に参加した衣川小学校4年生が森林環境を題材とした出し物を行っている。



4年 「～森の木を切るのは許さない～
ぼくらは宇宙のペンキ屋さ！」

4年生は総合的な学習の時間に、森林学習会を通して、森林の働きについて学んできました。また、平泉古事の森づくりに参加し、月山にヒバの苗木を植えてきました。

そこで今年の学習発表会は、「森林を守り育てよう」という願いを込めて『ぼくらは宇宙のペンキ屋さ！』の劇に取り組みました。見所は、木や動物たちが宇宙のペンキ屋さんの力を借りて、不思議な森にし、山どろぼうを退治しようと力を合わせる場面です。4年生の元気いっぱいの演技をお楽しみ下さい。

(2) 「遊々の森」(星めぐりの森)

「星めぐりの森」では、離接する放牧採草地跡でボランティアによる植樹活動が実施された。その様子を紹介する。

ミーティングでは、主催する瀬川氏より緑の回廊等国有林の環境保全に対する取組の紹介と「遊々の森」協定に至った経緯等を紹介するとともに、「星めぐりの森」の名称について、宮沢賢治の文学の中で「星」は「命」に通じると表現されており、「遊々の森」もさまざまな命をめぐる森にしていきたいと挨拶の後、奥州市在住の樹木医より植樹について留意点など説明を受け植樹活動を開始した。

ボランティアで一からのスタートであり、出来るだけ採草地造成前に戻すこと、また、生物の多様性保全を確保するために隣接する「遊々の森」区域内からの苗木の採取と来年以降の苗木の育成を目指し、クルミ、ナラ、トチ等の堅果の採取と養生を平行して行なっている。

植樹区域は、長年採草地として利用されていたため森林土壌は失われ表土が薄く礫交じりの土は植穴を掘るのも一苦勞、「腰が痛い」「手が痺れてきた」それでも黙々と作業する姿は楽しそうでした。

また、トチ、クルミ、ナラ等は直播きでも実施することにし、それについても樹木医より指導をいただいた。



星めぐりの森植樹に参加して

・下河原軍集（花巻市）

二十五周年記念にエコ活動として植樹をしようという事で、職員五名で初めてカタクリの会に参加させて頂きました。

参加した五名の誰もが植樹の経験は勿論、登山やハイキングなども殆ど経験がない、いわば山に関しては素人で会のみなさんのお世話になりました。トラックの荷台に乗ってドキドキワクワクしながら現地向かいました。森の中を通り向かった先に現れたのは広大な牧草地でした。この土地を森に戻すという事を目の当たりにした時、これから私達は想像していた以上に大変な事を始めようとしているのではないかと不安と期待の入り混じったような気持ちになりました。

当日参加された方が瀬川氏の発行する会報「カタクリ通信」に寄せた投稿で、この活動に寄せる思いと期待が伺われる。

6 考察

私たち国有林職員もその活動と連携をとり、今回紹介した「古事の森」・「遊々の森」の取組が地域での森林環境保全への啓蒙と普及の一つとして役立つことを期待するとともに、自らの役割を自覚することが必要である。

先ずは森の中で苗木を探す作業をしました。草なか木なかか検討も付かない中、ようやく見つけた苗木をそつと掘り出す作業はまるで子供に戻った時のように夢中になりました。森の土はふかふかでとても気持ちが良いです。

牧草地に苗木や種を植える作業は想像以上に大変でした。人間が一度触ってしまった自然を取り戻すのはこんなにも大変な事なのだ実感しました。

最後に牧草地を背景に参加者の皆さんと撮った記念写真。今はまだ何もなければいけれど、これから私達の背中に大きな森が蘇る事を願ながらこれからも活動を続けて行きたいと思えます。

記念すべき第一回星めぐりの森再生大作戦に参加出来た事、とても嬉しく思います。素敵な体験をどうもありがとうございました。